

みんなで幸せな人生を

とば市長(三重県) 木田久主一

Kusuichi kida



貧しかった木田家

私の家は先祖代々、貧しい百姓であったと思われまふ。本家は火事を出して愛知県の方に移住したと聞いていますが、わが家は分家して以来、私で6代目に当たります。これは、わが家の3代目のころの話ですが、ちよつと下の方に、割合裕福な米屋さんがありました。その娘は子供のころに、木田の家の前を通るときは、息を止めて走って通るように、家族から言われていたそうです。何故そのようなことになった



リアス式海岸で温暖な気候に恵まれている鳥羽市

かというところ、木田家は村一番の貧乏であり、生活も不潔であつて、村に赤痢などの疫病が流行ると、大抵の場合、木田家から患者が多く出たそうです。そこで村では、病気の蔓延を防ぐために、木田の家を避難舎として活用して、患者を集めて隔離したということです。このような理由で、村人たちは「木田の家の前は息を止めて走る」ということを実行したのでしょう。しかし、面白いことが起こりました。木田家の4代目、つまり私の祖父がもらった嫁は前述の米屋の娘だったので。その祖母は私たちに「息を止めて走った家へ嫁に来るとは思わなかつた」とよく言っていたものです。

その祖父には6人の子供がいました。が、先の大戦で長男が1歳の娘を残して戦死してしまいました。その後、当時はよくあつた話ですが、17歳の次男が兄嫁と結婚して家を守るようになりました。その結果、生まれたのが私たち4人の兄弟ということになります。戦争はあつてはならないと思ひますが、あの第二次世界大戦があつて、はじめて私たち4人の兄弟が存在すると思ふと、何か複雑な思ひです。

五木ひろしさんの思ひ

懐かしい子供のころの想ひ出は、もう随分昔のことになってしまいました。近所に



母校の竣工式にて(五木ひろしさん(右)と筆者(左))

は子供たちがたくさんいて、毎日、田んぼや山で、日が暮れるまでチャンバラごっこやかくれんぼなどをして遊んだものです。そんな多くの友だちの中に実は五木ひろしさんがいたのです。

三谷謙という名で歌謡選手権十週勝ち抜きを果たし、新たに五木ひろしとして「よこはまたそがれ」で大ヒットを飛ばしていることはよく知っていました。ある時、その五木ひろしさんが私の幼な友だちの松山数夫君であることを知り、大変驚いたものでした。松阪市で行われた公演で、五木さん本人の口から、昔鳥羽に住んでいたことが話され、私の名前まで出たということでした。そこで、次の伊勢市での公演の折、



母校の竣工式で在校生のみなさんと記念写真（中央が五木さん、右上に筆者）

楽屋まで会いに行き、再会を果たすことができました。

平成25年、私たちの共通の母校である小
学校を新築した時、とても無理であると思
りつつ、五木さんに、私の下手な自筆で招

待状を送りました。五木さんからは、私の携帯電話に「ちょうどこの日だけスケジュールが空いている」と夢のような返事が届きました。その後の出来事は新聞等で報道されたとおりです。竣工式では、あいさつの中で持ち歌「ふるさと」をアカペラで歌ってくれ、子供たちや市民を感動の渦の中に引き込んでくれました。ここは自分のふるさとであると言われ、ステージの緞帳とんちやうを寄付して下さり、その半年後には、無料でステージショーを開いてくれました。鳥羽市民は「さすがに一流歌手はすごいなあ」と感動し、五木ファンがいっぺんに増えたようでした。

感謝、そして前向きに

今は遠き貧しい時代に、松山数夫君と共に遊んだころに思いをはせると、現在の豊かな社会、そして個人的には市長に就任させていただいて、ふるさとのために、微力ながら活動できることは感謝のひとつにつきます。私があいさつの中でよく言うのは、「上を見ればキリが無く、下を見てもキリが無い」ということです。もちろん上を見て、そこへ到達するために努力することは大切なことです。しかし、上を見てうらやましく思うのは良くないということでは。自分の現状の中で、悪いところを探し

て嘆くのではなく、良いところを見つけ、「あ、良かった。幸せだ」と考えると、前向きな人生が歩めるのではないかと思います。自分は幸せだと常々考えている人には幸せが訪れ、自分は不幸だと嘆いている人には不幸が近寄ってくるような気がしてなりません。

私たち、団塊の世代と呼ばれる人たちは、戦後の貧しい時代に生まれました。しかし生まれてこの方、右肩上がりに経済は成長し、社会も自由で思いやりに溢れた方向に発展しました。今の子供たちは、豊かな時代に生まれ育っただけに、苦労に対処する力が私たちの世代に比較して足りないような気がします。本当に幸せなことは、苦しい中から頑張つて、人生の最終に向かって豊かになってゆくことであると身をもって感じています。

豊かな時代に生まれ、そのまま豊かな時代に終わるということも幸せなことですが、現在の子供たちがそのような人生を歩むことができるように、大人たちは努力しなければなりません。国の抱える多額の借金、核のゴミのことなどを考えるとき、私たちは大人の責任を痛感してしまいます。

これからもわがまち鳥羽の発展のため、社会全体のために私に残された活力を発揮してゆきたいと思えます。